



333 East 47th Street New York NY 10017 TEL 212 832 1155 FAX 212 715 1262 www.japansociety.org

<プレス・リリース>

プレス担当:

塩原 邦子 (kshiobara@japansociety.org / 212-715-1249)

シャノン・ジャウエット (sjowett@japansociety.org / 212-715-1205)

ジャパン・ソサエティー・ギャラリー

展覧会

歌川国芳の奇想世界

～アーサー・R・ミラー・コレクションより～

リスティング・インフォメーション

- 会場: JS ギャラリー
333 East 47th Street, NYC (at First Avenue)
- 展示期間: 2010年3月12日(金)～6月13日(日)
- 開館時間: 火曜日～木曜日: 午前11時～午後6時
金曜日: 午前11時～午後9時
土曜日・日曜日: 午前11時～午後5時
月曜日・祝日は休館
- 入場料: 一般12ドル、シニア・学生10ドル、会員・16歳以下 無料
毎週金曜日午後6時～9時は無料
- 展覧会の解説ツアー: 日本語 金曜日 午後6時より(要予約)
英語 火～日曜日 午後12時30分より
展覧会入場チケットをお持ちの方は無料(所要時間は約1時間)

団体鑑賞に関するお問い合わせ: (212)715-1224

JS ギャラリーは3月12日(金)から6月13日(日)まで、『歌川国芳の奇想世界 ～アーサー・R・ミラー・コレクションより～』を開催いたします。画面いっぱいのにた打ち回る妖怪、豪胆に戦う武者、迫り来る巨大な骸骨など、多彩な画題を大胆奇抜に描いた奇才の浮世絵師、歌川国芳(1797～1861年)の作品約130点を展示します。

2009年春にロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで大好評を博した本展は、米国では約30年ぶりに開催される国芳展となります。今回は、同ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツによる企画で、ニューヨーク在住のアーサー・R・ミラー氏と大英博物館の協力により実現。The American Friends of The British Museum の厚意により、主にミラー氏が蒐集した国芳作品で構成し、開催いたします。

歌川国芳は同時代に活躍した北斎、広重、その他の浮世絵の巨匠たちと同様、風景、歌舞伎、美女など様々なジャンルの作品を制作しました。しかし、日本や中国、アジア諸国の歴史・宗教・伝説・神話などを採り上げたアクション満載の物語描写や、擬人化した動物を喜劇的に描いた狂画、外国の題材や西洋の視覚表現の技法を用いた奇抜な試みなどに、国芳の本領が発揮されています。

「国芳の作品は、現代のマンガ、アニメ、ビデオゲームなど、物語を視覚的に表現する手段の原型になっていると考えられます。今日この分野で最先端をいく制作者らと同じように、国芳も目の肥えた飽くことなき観衆に向けて、滑稽な人々やアクション・シーンをふんだんに盛り込んだ作品を廉価で大量に提供した奇想の絵師だったと言えます。」(JS ギャラリー・ディレクター、ジョー・アール)

国芳が絵師として活躍した後期の徳川幕府下では、天保の改革によって浮世絵も規制の対象になりました。国芳はそのような制約に一層想像力をかき立てられたかのように、幕府の禁令の網をかい潜りながら作品制作を続けます。こうして国芳はますます腕を磨き、描写の創意工夫によって表向きは害のない場面に政治的な意味を込めた絵を発表し続けました。

国芳の作品は表面的には禁制を守っているように見えますが、当時の市井の人々は背後に隠された真の画意を明確に理解しました。特に、本展で出品される『源頼光公館土蜘蛛作妖怪図』(1843年)は最も取締りの厳しかった年に制作されたもので、江戸の人々の関心を一気に集めた作品です。土蜘蛛によって呼び出された妖怪に源頼光が苦しめられている光景を描いた本作品を見た人々は、画中の頼光が無力の将軍徳川家慶であることを見破り、当作品は当時の改革を巧みに風刺する『判じ物』として広く解釈され、偽物が出回るほどの人気となりました。

この頃、幕府の規制は最も売れ筋であった美人画を発禁するに至ります。国芳は、通常の形式の美人画を避け、幕府の目が行き届きにくく、消耗品の意味合いが強かった団扇絵に着目し、団扇の形の紙に美しい女性の姿を描きました。また、魅力的な女性の絵姿を見たいという人々の欲求に応えるため、芸者・花魁の代わりに貞淑な女性を描いて模範的な淑女の姿を示すことで、幕府の禁止する「美人画」の範疇外ともいえる独創的なシリーズを発表しました。このように国芳は、禁制の裏をかいて作品を作り続けたのです。

国芳の作品に見られる抜群の技法は、特に戦の様子や雄々しい戦いの場面を描いた作品に如実に表れています。代表例としては、刺青のあるたくましい猛者たちが劇的な戦いに挑む初期の連作『通俗水滸伝豪傑百八人之一個』、諸角昌清が戦の最中に自害する瞬間を常識を超える構図で表した『諸角昌清の自決』(1848年)、人気を博した滝沢馬琴の大長編作『南総里見八犬伝』の一場面を描いた屋根の上での捕り物『八犬伝之内芳流閣』(1840年)、巨大な骸骨が大判3枚にわたる構図の大部分を占めるスリル満点の『相馬の古内裏』(1845/46年)などが挙げられます。

国芳ならではのとも言える技は、3枚続きの画面全体にひとつの主題を描いたインパクトのある構図を作り出した点です。それまでは1枚ごとに独立した構図で描くのが定石でしたが、国芳は慣例を破って3枚にわたる画面に題材を大胆に描写しました。誤って犯してしまった殺人を悔いて那智の滝で苦行を行う文覚上人が描かれた『もんがくしょうにんあらざよう文覚上人荒行の図』(1851/52年)の縦に3枚並んだ画面の真ん中には、豪放にも滝水と岩しか描かれていない、大変珍しい構成となっています。

1847年と48年に発表された連作『せいちゆうぎしんでん誠忠義心伝』の印刷部数からも、当時、国芳の版画がどれほど庶民から支持を得ていたのかということがうかがえます。身の毛もよだつほどの緻密な描写、大胆な戦闘場面が描かれた計51枚からなる本作品は、一点につき8千枚、合計で40万8千枚という驚異的な売り上げを記録しました。

江戸時代末期、大衆から絶大な支持を得た絵師、歌川国芳。同時代に活動した葛飾北斎や歌川広重らの絵師とは一線を画した「幕末の奇想世界」の数々は、その奇抜な視覚効果によって、当時の世相を躍動感と共に現代に伝えます。

アーサー・R・ミラー

弁護士、法学者。ニューヨークのクリアリー・ゴットリーブ・スティーン&ハミルトン法律事務所にて勤務後、コロンビア大学ロー・スクール、ミネソタ大学、シガン大学にて教鞭をとる。1971年、ハーバード大学ロー・スクールのブルース・ブロムリー法学部教授に就任。2007年、ニューヨーク大学ロー・スクール教授。2008年よりミルバーグ法律事務所の特別弁護人も兼任する。法律や社会に関する高名な解説者として20年にわたり『グッド・モーニング・アメリカ』の法律専門の論説を担当し、公共放送サービス(PBS)でも人気のある討論会に何度も特別出演した。多数の連続テレビ番組の司会を務めた功勞によりエミー賞を2度受賞。著書は40冊以上にのぼる。熱心な芸術愛好家であり、約30年にわたり国芳版画を蒐集。2008年より約2千枚におよぶ自身の版画コレクションを American Friends of The British Museum へ寄贈し始める。同コレクションは現在、大英博物館へ貸出中。

展覧会キュレーター ティモシー・クラーク

大英博物館アジア部門の日本担当主任。オックスフォード大学、ハーバード大学、学習院大学で学業を修め、1987年より大英博物館に勤務。1998年には国際浮世絵学会より内山晋米寿記念浮世絵奨励賞を授与された。2006年10月、同館内の三菱商事日本ギャラリーでの常設展示『日本……古代から現代まで』を監修。肉筆浮世絵をはじめ、河鍋暁斎、喜多川歌麿、初期浮世絵、富士山画、葛飾北斎、上方絵、歌川国芳など、日本美術に関する多数の著作を執筆・編集。2009年、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツにて絶賛を博した『KUNIYOSHI』展を監修、図録の執筆を手がける。現在は、円山四条派の絵画、明治時代以前の京都の美術市場・展覧会の進展、日本における春画の歴史などの研究を進めている。

展覧会図録

展覧会図録は、本展キュレーターのティモシー・クラークによる執筆で、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツより出版されます(303ページ、36ドル74セント)。武者絵から美人画、風刺画、風景画に至るまで、幅広い領域の国芳版画を紹介、200点を超えるカラー図版が収録されています。展覧会場、JS ウェブサイト(www.japansociety.org)にて購入可能です。

関連プログラム

こんにちはフレンズ：ファミリー向けギャラリー・ツアー

展覧会会期中の第2土曜日(3月13日、4月10日、5月15日、6月12日) 午後2時～3時

参加対象: 2~4歳の児童と同伴保護者

『歌川国芳の奇想世界』展開催中の毎月第2土曜日、家族向けの無料ギャラリー・ツアーを行います。作品を間近で鑑賞する大切さ、作品が持つ意外性などのテーマを探求し、参加児童の年齢に合わせた日本語の語彙を用いるアクティビティーを通じて、アートと文化に触れ合う機会を提供します。問い合わせは212-715-1224まで。

シンポジウム『歌川国芳の奇想世界』 4月17日(土曜日) 午後1時

Japanese Art Society of America (JASA) との共催、Japanese Art Dealers' Association の協力で開かれる本シンポジウムでは、本展キュレーターのティモシー・クラーク(大英博物館アジア部門日本担当主任)、サラ・トンプソン(ボストン美術館浮世絵版画室室長)、エドワード・ケイメンズ(イェール大学東アジア言語文学部日本文学科教授)を招き、国芳作品を歴史的・美術史的観点から考察し意見交換を行います。進行役はJSギャラリー・ディレクターのジョー・アールが務めます。一般11ドル、JSおよび JASA 会員、シニア・学生7ドル(展覧会の入場料込み)。チケットの購入は212-715-1258まで。

アートカート『版画の魅力』

5月16日(日曜日) 午後2時~4時

参加対象: 8~12歳の児童と同伴保護者

解説ツアーやワークショップ、意見交換を通じて『歌川国芳の奇想世界』展を鑑賞します。参加者体験型の本プログラム後半では、実際に木版や製作道具に触れる機会を設け、野菜を用いた版画作品を自ら作成します。一家族(5名まで)につき15ドル、会員を含む家族は10ドル。チケットの購入は212-715-1258まで。

後援・協力

- 協賛 クリス・ワッケンハイム、エドワード&アン・スタジンスキ、ニューヨーク市文化局、ニューヨーク市評議会
- メディア協賛 WNYC
- 準協賛 ライラ・ワレス・リーダーズ・ダイジェスト基金、JS ギャラリー友の会、ニューヨーク州芸術評議会、スポンサー財団(カタログ出版)

JS ギャラリーについて

当ギャラリーは日本と東アジアの伝統美術および現代美術を扱いながら、日本と東アジアを包括する新しい文化的視点を切り開いています。1971年以来、古典仏教彫刻、書画、現代写真、陶磁器、日本刀、輸出向け磁器、13世紀から15世紀の絵画など、広範囲にわたる展覧会を企画開催し、展覧会図録の出版、講演会の開催とともに、さまざまな分野の美術を紹介しています。

JS について

JSは、1907年(明治40年)にニューヨークに設立された米国の民間非営利団体です。全米最大の規模を誇る日米交流団体として、両国間の相互理解と友好関係を促進するため多岐に渡る活動を続け、2007年に創立100周年を迎えました。その活動範囲は、政治・経済、芸術・文化、日本語教育など幅広く、各分野での催し物や人物交流などを通じて、グローバルな視点から日本理解を促すと同時に、日米関係を深く考察する機会を提供しています。今日、JSは政財界のリーダー、アーティスト、教育関係者、起業家から学生まで様々な方々を招聘し、日米の個人・法人会員をはじめとする多くの人々を対象に年間100以上のプログラムを提供しています。1907年の創立以来、JSが企画・開催した展覧会、舞台公演、映画上映会、講演会、試食・試飲会、シンポジウム、国際会議、セミナー、ワークショップは数千件にのぼります。